

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 3 日現在

機関番号：34601

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23531257

研究課題名(和文) 21世紀型ジェネリック・スキルの形成による「人生設計型学校カリキュラム」の再構築

研究課題名(英文) Rebuilding The School Curriculum for Fostering 21 century Generic Skills.

研究代表者

今谷 順重 (Imatani, Nobushige)

帝塚山大学・現代生活学部・教授

研究者番号：60093639

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円、(間接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：現在のめまぐるしい産業構造の転換の中で、今日ほど、次代をになう子ども達が「未来を見据えながら希望を持って人生をたくましく歩んでいく力」が強く求められたことはない。ここでは、一般の公立学校や才教学園小中学校・大阪府教育委員会・宮城県教育委員会・仙台市教育委員会が進められている「志教育・自分づくり教育」の理論と実践を取り上げ、その特色と人間形成的・教育的意義について、筆者がこれまで提唱してきている「人生設計能力を育てるな能力開花型・自己成長型・人生設計型学校カリキュラム」のより一層の充実・発展のあり方という観点から考察する。

研究成果の概要(英文)：In the rapid changes of today's industrial structure, it is very strongly needed that children establish the ability of zest of life with clear bright ambitions to their future days. In this study, I will consider the characteristics of ambition education and the personal development education

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：人生設計能力 ジェネリック・スキル 人生設計型学校カリキュラム 志教育 自分づくり教育 夢や志をはぐくむ教育 みやぎの志教育 キャリア教育

#### 1. 研究開始当初の背景

2006年(平成18年)12月の教育基本法の改正を受けて、翌年の2007年(平成19年)に改正された学校教育法でも、義務教育の目標について述べた第21条において、「10.職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて進路を選択する能力を養うこと」が新たに規定された。これによって、小学校からの体系的なキャリア教育の必要性が法律的に根拠付けられることになった。

#### 2. 研究の目的

今日の子どもたちは、産業・経済構造の転換や雇用・就業構造の流動化・多様化といった、彼らを取り巻く社会環境の急激な変化の中で、生活体験が希薄化し、自分の将来を考えるのに役立つ生き方のロール・モデルに出会うことも少なくなっており、自らの将来についての夢や理想や希望や憧れを描くことが容易ではなくなってきているのである。その結果、将来つきたい職業や自分にとって意義あり価値ある幸福な生活や生き方を実現するために学ぶという自覚が弱く、学ぶことや働くことへの興味・関心・意欲と目的意識、責任感・主体性の低下、職業観・勤労観や進路選択意識の未熟さなどが目立ってきている。

今日ほど、次代になう子ども達が「未来を見据えながら希望を持ってたくましく人生を歩んでいく力」を身に付けていくために必要な資質・能力を形成していくための教育が強く求められたことは、かつてなかったといえよう。

#### 3. 研究の方法

ここでは、最近いくつかの学校や自治体で新たに取組まれるようになってきている「志教育・自分づくり教育」の動向に注目しながら、筆者がこれまで提唱してきた「何のために学ぶのか」についての自覚を深め、目的意識を持った主体的な生き方・学び方を取り戻す中で子どもたち・若者たちの人間的・社会的・職業的自立を積極的に支援していくことのできる、新しい教育のあり方としての「人生設計能力を育てる人生設計型学校カリキュラム」のより一層の充実・発展の方向性のあり方について考えていくことにしたい。

#### 4. 研究成果

##### (1) 新潟県佐渡市立佐和田中学校

新潟県佐渡市立佐和田中学校では、「社会構造の複雑化や価値観の多様化により、子どもたちの勤労観や職業観も変化し、人生観の確立(生き方)にも迷いをもたらし、自分の将来も夢や生きる目標を定めにくくなっている」そして、「夢は人が生きるための最大のエネルギー」であり、「学校における社会的自立の育成は、生徒一人ひとりに大きな夢を抱かせ、膨らませていくことが基盤となる」として、「主体的に自己実現していく力(目標を持ち粘り強く努力する生徒)」と「困難に立ち向かうたくましさ(自他を尊重し自

治的に活躍する生徒)」からなる「社会的自立力」を形成するための、「生き方指導」としてのキャリア教育プログラムを開発している。

ここでは、1年「夢を持とう」2年「夢をふくらまそう」3年「夢の実現へ歩みだそう」というテーマのもと、人生講話「夢へのチャレンジ」、マナー講座、トレーニング、夢作文、12職種の講師のキャリアセミナー、キャリア・カウンセリング等の各教科・領域・学校行事におけるキャリア活動の連続的・計画的な積み上げの中で、人間関係能力、将来設計能力、情報選択・活用能力、問題解決能力の4つの力を相互交流・相互補完させながら複合的・統合的総合力としての社会的自立力(将来への夢や希望や目的を持って学習や生活に前向き・意欲的に挑戦していく力)を培っていかうとしているのである。(同校ホームページ参照)

##### (2) 岩手県教育委員会の「いわてのキャリア教育」

岩手県教育委員会でも、「いわてのキャリア教育」を、「児童・生徒が自己のあり方・生き方を考え、主体的に進路を選択し、社会人・職業人として自立するための能力を、学校教育活動の全体で計画的・組織的に育むこと」として定義し、その基礎となる「総合生活力」と「人生設計力」という2つの力を育成することを目標に掲げているのが注目される。子ども達が自分らしいあり方や生き方を考え、社会的・職業的に自立していくための「エンジン」となるのが「総合生活力」であり、それは、「市民生活・職業生活・家庭生活など、社会生活の様々な場面に適切に対応できる能力」である。

もう一つの「ハンドル」としての「人生設計能力」とは、「児童・生徒が主体的に人生計画を立て、進路を選択し、決定できる能力」「児童・生徒を取り巻く現実の社会を知り、勤労観や職業観をはぐくみ、将来の人生計画を主体的に決定できるようにする能力など」である。(同校ホームページ参照)

##### (3) 愛知県犬山市立犬山南小学校の「夢をもち、仲間と学び合うなかで、自分を拓く子の育成 - 心を育てるキャリア教育 - 」

犬山市立犬山南小学校では、上のようなテーマの下、キャリア教育を「子どもたちの夢をはぐくみ、生き方を支援していく教育。現実社会の中で生きる力、主体的に自分の生き方を選択決定できる力をつけていく」「生き方教育」ととらえ、学校のすべての教育活動をキャリア教育の視点で見つめ直しながらカリキュラムを編成していくことによって、社会形成者としての「一人ひとりのキャリア発達を伸ばし、個としての自立を促す」ための教育の実現に取り組んでいる。めざす子ども像としては、自己存在感・自己有用感を実感し、自分のことが好きといえる子、共に学び合い高め合うことのできる共感関係を作り上げていくことができる子、自分で

自分の目標を設定して、自己決定や振り返り活動を積み重ねていく中で、学びを価値づけながら前向きに学習に取り組むことのできる子という、3つの姿を掲げている。

子どもたちがかけがえのない自分の個性・適性や可能性に気づき、それをさらによりよく伸長・開花させていくための自己選択・自己決定を積み重ねながら、将来の人間としてのよりよい生き方や生活の在り方を自らの力で切り開いていくことができる「自立・自己実現の力」を形成していくことが、本校のキャリア教育の目的である。そのためにはまず、自分は自分ならではの良さや持ち味を持っていることに気づく「自己存在感」と、それらを生かし活用しながら他者や社会のために自らを役立てていくことができる存在であることを自覚することのできる「自己有用感」を実感することができるようになっていくことが大切である。そしてさらに、他者や社会とのつながりの中で、自分の価値や存在意義や役割を自覚できるようになることも必要である。

そこで、多くの人たちとの連携と協働で成り立っている明日の職場や社会の有能な担い手として子どもたちを育てていくためにも、「仲間と協働で取り組む活動を増やし、互いを認め合う学び合いを随所で行う」ことが大切であるとする。そして、このような個としての自立性と社会性の中での対話性・協働性を同時に身につけていくことによって、「将来はこんな人になりたい」「将来はこんな職に就きたい」「こんな暮らしやこんな生き方ができるようにしたい」と、未来への明るい前向きで明確な目標や夢や希望や憧れを持って、進路希望の実現につながる当面の目標達成に全力でチャレンジしていくことができるようになっていってほしいとするのである。

本校では、キャリア教育の理念と方法は、学校教育はもちろんのこと生涯を通して垂直方向・縦に伸びていく教育全体の通時的な目標であると同時に、学校から家庭・地域・外部機関へと水平方向・横に伸びていく共時的な教育の本質そのものでもあるとする考え方に立って、子どもたち一人ひとりのかけがえのない人間性や独自性をきめ細かく丁寧に見取り励まし支えながら、個性豊かに伸長・開花させていこうとしている点が大きな特色である。

文部科学省が提示する「4領域8能力」や「基礎的・汎用的能力」が、21世紀型ジェネリック・スキルの形成という観点から、日本全国共通・全世界共通の「学力のグローバル・スタンダード(全世界標準型の生きる力の共通学力)」として提示されているのに対して、キャリア形成能力という観点から見た「社会的自立力」や「総合生活力」「人生設計力」「自己存在感」「共感関係」等の考え方は、前述のキャリア発達にかかわる諸能力の相互関係を、人間的・生活的・社会的・職業

的自立を促すという、もう一段深い独自の統合的でホリスティックでダイナミックな観点から、立体的・構造的にわかりやすく示しているところに、大きな特色があるといえる。(同校ホームページ参照)

(4)才教学園小学校・中学校における「世のため人のために尽くす高い志を育てる『志教育』」

筆者は2012年(平成24年)2月に、長野県松本市にある才教学園小・中学校を訪問して山田理事長をはじめ多くの先生方から、志教育の考え方についての多くのお話をお聞きするとともに、小・中学校での数多くの授業を参観させていただくことができた。ここでは、山田理事長の著書『学力も人間力もぐんぐん伸びる「志教育」の秘密』総合法令出版株式会社2011年と、同学園のホームページの内容に基づいて、本校が取り組む「志教育」の特色について考察を進めたい。

本学園が推進する志教育の理念について、その提唱者である山田昌俊・才教学園理事長兼校長は、著書の中で、「世のため人のために尽くす高い志を育てる教育」「人間力と学力の育成で子どもを限りなく伸ばす教育」「自分は何が得意で、どんなことが好きで、何ができるのかを発見できる教育」「自分で目標を設定して自発的に物事に取り組み、達成していく、自己実現力を育てる教育」といった言葉で説明している。

そして本校の教育目標としては、「感動を体験し、『使命』に生きる生き方を希求する、自立心と責任感を育てる、他人を信頼し良好な関係を築いていけるコミュニケーション能力を高める、自分で目標を設定して自発的に物事に取り組み、達成していく、自己実現力を高める」が掲げられている。

(5)学力と人間力の両方の育成で子どもの可能性を限りなく伸ばす

このような教育理念を実現するための学校を設立しようという考えに至ったのは、日本の教育が依然として校内暴力・いじめ・不登校・学級崩壊など深刻な諸課題の改善の兆しが見えず、人を育てることへの活力を失ったままであること、またただ受験のための偏差値を伸ばそうとするだけでは、子どもたちは受験勉強疲れを起こしてしまって、「本当は何のために勉強するのか」という、学ぶこと本来の目的意識を持つことができず、自分の持てる良さや可能性を最大限に引き出し伸ばして、社会に役立つことのできる人間になっていこうとする、真の学びへの主体性や自立性を確立していくことが困難になってしまうと考えたことにある。そのために山田昌俊氏は、現在の日本の状況では、「将来の夢を描けない子どもたち、自信を失い目の輝きを失った子どもたちが増えている」と指摘している。そして2005年(平成17年)に開設された才教学園小・中学校は、2008年度(平成20年)

に「学校使命」として「世のため、人のため

に尽くす高い志を育てる」「人間力と学力の両面の育成から子どもの可能性を最大限に引き出し伸ばし、新しい時代を切り開く人材を育てることが必要」を掲げ、2010年(平成22年)度からこのような理念全体を「志教育」と名づけて、自分たちがめざす教育を全力で推進していくことを宣言したのである。

(6)才教学園が実現をめざす教育理念「志教育」とは何か

それでは、本校がめざす子どもたちに育成したい「志」とはどのようなものであり、それはどのような方法によって育てていくことができるのか。「志」とは、一般的に、将来自分が実現したい、達成したいと心に決めた夢・理想・希望・憧れや目的・価値・信念や生き方を指し、それを明確に持つことによって子どもたちの学習意欲や生活への積極性を飛躍的に高め、個々人の中に秘められたその子らしい良さや可能性を最大限に引き出し伸ばすことができるものであると考えられるが、ここでは志それ自体についての明確な定義づけは行っていない。ただ志を生み出す3つの要素として、「才」と「夢」と「役割」を挙げ、これらの要素が「子どもたちの中で絡み合い、融合することで志が芽生える」としている点が注目される。

「才」とは、「自分が得意なこと、向いていること、熱中できること」であり、生まれながら身につけている自分の特性であり、自分の中に培ってきた自分ならではの能力である。「夢」とは、将来こんな仕事につきたい、こんな生活がしたい、こんな社会になったらいいなという願いであり理想である。「役割」とは、夢を実現し社会に自らを役立てることによってよりよい世の中をつくって行く上で、時代や社会の人々とのかわりの中で個としての自分に求められる、自分が担い果たすべき位置や立場や責任である。これら3つの要素がその子なりの感性や論理で相互に結びついたとき、自分の成長を通して将来自分が進むべき方向性であり、めざすべき到達地点ともなる「高い志」が芽生えるのである。

またこれらの志の3要素が芽生え根を張り育つための土壌として、その基礎となり土台となる部分に、礼儀・約束・真善美といった人としての正しいことを学び尊重し合う「倫理観のある環境」、自分と友達・仲間や親や先生や他の大人たちとの間の、信頼と絆を大切にしよう「愛」のある環境、絶えず理想や目標を高く掲げ、今までの自分の殻を打ち破り乗り越えるために挑戦し続けていく勇氣(チャレンジ精神)のある環境が必要であるとしている。

したがって本学園では、吸収力に富む小学校4年生までを第1期、心身の成長・変化が著しい中学2年生までを第2期、将来の自分の進路に向けて準備を整える中学3年生を第3期とする、「志を育てる4・4・1のステップシステム」を採用して、子どもたち一人ひとり

の「才」「夢」「役割」について考え気づかせ伸ばしていくためのプログラムが、授業や学校行事の中に効果的に位置づけられ用意されている。

(7)「才」と「夢」と「役割」の融合で高い志が芽生える

本校では、先にも指摘したように単なる受験テクニックを磨くだけの学習ではなく、基礎学力の確実な定着を踏まえてそれらが思考力・分析力・判断力・表現力へと発展していく、総合的な質の高い全人的学力の形成を行うための授業に力を入れていることはいうまでもない。パワー1:基礎学力(知識)、パワー2:思考力・分析力・判断力、パワー3:表現力という3つの学力パワーが、基礎学力から応用力へとステップアップして発展的に実力を高めていく「学習スパイラル」、毎朝日替わりで朝読書や漢字の書き取りや百マス計算に取り組む「さいきょうトレーニング」、1年生から6年生までが毎日25分間の英会話学習に取り組む「エブリデー・イングリッシュ」、中学生だけではなく小学校1年生から6年生までの全員が、自分の実力を知るために挑戦する全国模試などはその具体例である。

それに加えて、志教育の核心部分ともいえる「愛・倫理観・勇氣(チャレンジ精神)」を高め、人としての生きる姿勢をはぐくむ「志授業」、心を大きく揺り動かす感動体験を味わい人間としての幅を広げる入学式・遠足・キャンプ・登山・さいきょう祭、五色百人一首大会、スキー・スノーボード教室、小学校課程修了式などの「学校行事」、漢検・数検・英検などの各種検定試験への挑戦、感動を分かち合うプレゼンテーション・コンテストや各グループのテーマや目的を持った修学旅行そして体育祭の3大イベント、「毎朝10分間、ことわざや故事成語などのいわれとその背景、歴史上の人物の生き方や発明・発見のエピソードなどを調べて発表」する「先達に学ぶ発表会」、幾多の苦勞を乗り越えて企業や実社会の第一線で活躍している人々の話を聞く「L I V E先達」、かなえない夢や就きたい職業やめざす生き方、毎日の暮らしの中での思いや願い、その実現に向けて長期的・短期的に自分なりの創意・工夫をしたり努力したことなどを作文に表す「志論文『私の志』」などが設けられているのが、本学園のカリキュラム編成上の大きな特色である。

そして実際に、これらの「志を芽吹かせる」ための体験活動を展開していく上で大切にされているのが、次のような5つの学習のプロセスである。第1番目のステップは、「感動を体験する」であり、体育祭では徹底して勝負にこだわって、悔し涙・うれし涙を流し、文化祭のさいきょう祭では、練習の苦しさや一つのことを成し遂げた感動で涙を流すなど、心を揺り動かす感動体験を通して、自分の能力の特性に目を向けるようになる。第2

番目のステップは、「自分の発見」であり、子どもたちは一人ひとりが味わった感動の中から、自分が好きで得意とすることは何であるのかが見えるようになってくる。第3番目のステップは、「夢を描く」であり、子どもたちは、様々な感動体験をはじめ先達の生き方に見る英知や努力などから自分のキャリア形成や人生観についてのヒントや手がかりを得て、自分はこれから何をしたいのかまた何を成すべきかについて、将来への夢を描き膨らませていく。第4番目のステップは、「役割への気づき」であり、ここでは子どもたちは、1つの計画を達成し目的を実現していくためには、周りの多くの人たちと積極的にコミュニケーションをとり、協働・連携しながら力を合わせて、社会や集団の中での自分の役割を担い果たしていくことが大切であることに気づいていく。最後の5番目は、「自立心と責任感」であり、ここでは、自ら進んで自分なりの目標を設定して、それに挑戦してきたことに達成感を味わうとともに、そのプロセスについて振り返り分析して反省する中で、自己実現への自立心と責任感を一層強め、さらに次の計画に意欲的に自信を持って、自ら積極的にチャレンジしていくことができるようになっていくのである。

(8) 人間的・社会的・職業的自立の構造としての、「高い志」を芽吹かせ成長させていくための学習プロセス

本学園の志教育の特色は、志を生み出す3つの要素としての「才」「夢」「役割」であり、それらが融合して「高い志」を芽吹かせていくプロセスとしての感動を体験する、自分発見、夢を描く、役割への気づき、自立心と責任感という5つのステップである。これらの要素やステップは、「キャリア発達にかかわる諸能力」のリストの中にも見られるが、それらとの関連性については明確な説明がなく、不明である。

ただ、独自に焦点化されたわかりやすい一連の観点を、連続的な追究活動の流れの中により簡潔に抽出し関連付けることによって、教科や特別活動等の学校全体の学習活動の中にも効果的に適用できるものとなっている。また自分の個性やよいところや得意なことを探し出し見つけ出して夢や理想や希望や志へと高めていく、体験活動や教科学習を多数組み込んだ、特色あるカリキュラム編成も効果的に行われている。

5・宮城県教育委員会における「みやぎの志教育」

(1) 夢をはぐくみ志に高める「みやぎの志教育プラン」

宮城県教育委員会では、宮城県教育研修センターでの研究成果なども踏まえて、2010(平成22)年3月に、本県の小学生・中学生・高校生は、将来の夢や目標を持ち、人から必要とされ社会に役立つ人間になりたいという考えを持ってはいるが、自分に自信が持てず、何事にも失敗を恐れずに挑戦するという点

ではやや消極的である。学習の面でも、自ら計画を立てて主体的に学習に取り組もうとする児童・生徒の割合は徐々に増えて来てはいるものの、学びの意義や目的を見いだせず、「自分の将来のために学ぶ」という意識が低い傾向にあるとして、本県での重点的取り組みの一つとして「志教育」の推進を位置付けた。

そして同年11月には、それまで取り組んできた「みやぎのキャリア教育プラン」を発展させる形で、夢をはぐくみ志に高める『みやぎの志教育プラン』を作成して各校に提示した。以下では、宮城県教育委員会及び宮城県教育研修センターのホームページで公開されている諸資料に基づいて、本取り組みの特色について考察していくことにしたい。

そこでは志教育を、「小・中・高等学校の全時期を通じて、人や社会とかかわる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めさせていく教育」、また「児童生徒が、人や社会とのかかわりを大切にしながら、夢をはぐくみ志に高め、自分の力をいかにして社会に役立てていくのかという視点を持たせながら、自己実現のためによりよい生き方を主体的に求めさせる教育」とであると定義している。

(2) 将来を主体的に切り開く宮城の子どもたちを育てる基礎的・汎用的能力

そして2010(平成22)年度は、他者や社会とのかかわりの中で自己を位置付け、自立した社会人・職業人としてよりよく生きるために志教育ではぐくみたい姿として、「人と「かかわる」、よりよい生き方を「求める」、社会での役割を「はたす」という、3つの視点を提示している。

またこれら3つの視点に基づいて育成したい5つの力として、人とかかわる力、自分と向き合う力、学びを深める力、創る力、はたす力を設定している。そして、志教育がめざすこれら3つの視点・5つの力は、2002(平成14)年に国立教育政策研究所生徒指導研究センターが「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み」の中で提示した「4領域8能力」や、2010(平成22)年5月に中教審キャリア教育・職業教育専門部会が提示した「基礎的・汎用的能力」の考え方を踏まえて作成したものであることについても、言及している。志教育は、宮城県教育研修センターが2004(平成16)年度から進めてきた「みやぎのキャリア教育プラン」を発展させる形で構想されたものであり、これまで推進してきたキャリア教育との関連については、「志教育は、キャリア教育の内容を前提としつつも、社会的存在としての人間の生き方の観点を重視し、社会の中で自分ができることや果たすべき役割は何か、そしてその実現のためにどのような取り組みが必要かなどについてより深く考えさせるもの」と述べ

べている。

### (3) 社会的・職業的自立を促す志教育プログラム

2011(平成23)年度は、東日本大震災からの復興を担い郷土の発展を支える人材の育成という課題も踏まえ、これまでに明らかにした3つの視点・5つの力を形成していくための、さらに新たな6つの内容を設定している。それらは、「**自己理解の深化** ささまざまな人とのかかわりを通して、自己理解や他者理解を深化させる」、「**人間関係構築力・社会性** - 集団や組織の中で、よりよい人間関係を築く力や社会性を養う」、「**学ぶ意義の実感** - 学校で学ぶ知識と、社会や職業との関連を実感させる」、「**主体的探究** - 社会における役割を果たす人間として、自らの在り方生き方について主体的に探求させる」。

「**役割認識** - 集団や組織の中で、自分の果たすべき役割を認識させる」、「**自己有用感** - 自己の役割を果たすことによって自己有用感を高める」である。

そして、これら3視点・5能力・6内容からなる志教育を、各学校で具体的に展開していくための流れとして、アンケート調査による児童生徒の実態把握、具体目標の設定、校内研修、入学時の実態と卒業時までに育みたい姿を明確にした全体計画の作成、各教科等を横断的につなぐ年間指導計画の作成、志教育の視点で見直した単元の構想、志教育の視点で見直した授業、児童生徒の成長に関する評価という8つの手順を提示した。ここでは志教育は、学校のすべての教育活動を通して行う必要があり、各教科・領域の特性に沿って志教育の観点を導入した実践を実現していくよう創意工夫を行っていかねばならないが、すべての単元で取り組むのではなく、重点化して指導することが望ましいとしている。また社会科・生活科・総合的な学習の時間・特別活動等の中核となる教育活動は、他の教科での実践を横断的・総合的に結び付ける役割があり、これによって志教育へと「児童生徒の力がより一層高まり、将来の社会生活で機能する力へとはぐくまれて行くものと考えられる」としている点が注目される。

(4) 21世紀の社会革新・生活革新(イノベーション)とのかかわりの中で、自分の新しい働き方や生き方を見つけ出す

21世紀は、グリーン・イノベーション、シルバー・イノベーション、ヒューマン・イノベーションの時代の到来であるといわれている。社会人講師の特別講話などを通して、人生の先輩としての働き方のキャリア・モデルや生き方のロール・モデルに出会い、21世紀の成熟社会・能力開花型社会を実現し、持続可能なライフスタイル・持続可能な社会・経済システムを構築していくための基盤となる人生設計能力の育成をめざしていくとともに、今日的な身近な社会問題をよりよく解決していくことのできる、これまでとは異

なった斬新なアイデアやそれを支える新しい価値観を創出しようとして、「社会的イノベーション」が必要とされる生活・社会領域に焦点を当てて志教育の学習に取り組んでいくことが重要である。

なお、大阪府教育委員会「夢や志を育む教育」、仙台市教育委員会「仙台自分づくり教育」の理論と実践についても分析と考察を行ったが、ここでのまとめは、紙数の関係で省略する。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

1. 今谷順重著「田淵五十生著『世界遺産教育は可能か - ESD(持続可能な開発のための教育)をめざして - 』」日本グローバル教育学会『グローバル教育』16号 85 - 56 頁 2014 年
2. 今谷順重著「志教育・自分づくり教育の理論と方法」『帝塚山大学現代生活学部紀要』第9号 27 - 41 頁 2013 年
3. 今谷順重著「加藤幸次著『分厚くなった教科書を活用した 40 の指導法 - 今こそ『教科書で教えよう - 』14号 日本グローバル教育学会『グローバル教育』14号 80 - 81 頁 2012 年

[学会発表](計 1 件)

三山久美子・今谷順重・三山剛史「総合的な学習の時間に取り組んだ『6年2組防災プロジェクト - 地域の一員として自分たちができることに気づき、行動する子どもを育てる - 』第23回日本公民教育学会全国研究大会 東北大学川内北キャンパス 2012年6月23日

[図書](計 件)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

今谷順重 (帝塚山大学現代生活学部)

研究者番号：60093639

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )